

公益財団法人久留米文化振興会

2022年度 事業報告書

自 2022年 4月 1日

至 2023年 3月 31日

目次

	Page
I 事業の概要	1
II 事業活動	2
《公益目的事業》	3
公1 芸術文化施設等の管理運営事業	4～5
公2 芸術文化振興事業及び地域文化活性化事業	6～12
公3 美術館運営事業	13～18
《収益事業》	19
収1 ホール運営事業及び会場利用者サービス事業	
収2 売店・喫茶事業	
収3 久留米市等公共団体からのイベント受託事業	
収4 久留米市の公共施設の指定管理事業	
収5 駐車場管理運営事業	
《事務局事業》	20
III 処務の概況	21～22
1 役員に関する事項	
2 会議に関する事項	
3 許可・認可・承認に関する事項	
4 届出・申請等に関する事項	
5 組織に関する事項	
IV 附属明細書	23

I 事業の概要

(総括)

当財団が管理運営する石橋文化センターは、株式会社ブリヂストンの創業者であり、久留米市名誉市民である石橋正二郎氏が「世の人々の楽しみと幸福の為に」と地域の発展を願い、1956年に建設、久留米市に寄贈された文化施設です。

石橋文化センターには、美術館、ホール、日本庭園等があり、文化芸術活動への参加のみならず、四季折々の花に溢れた庭園の散策にも多くの方が訪れます。

石橋文化センターの中心施設である久留米市美術館は、2021年12月から2022年10月にかけて休館し、公益財団法人石橋財団の全面支援により、美術館搬出入口棟等を整備いただきました。搬出入口棟が完成したことにより、作品をより安全に運搬することができるようになりました。本整備に合わせて、受変電設備や空調設備の更新、イベント用幹線設備や止水板、さらには石橋正二郎記念館の音声ガイドアプリも整備いただきました。10月29日からは、リオープンを飾る展覧会として、「生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」を、公益財団法人石橋財団の特別助成により開催しました。

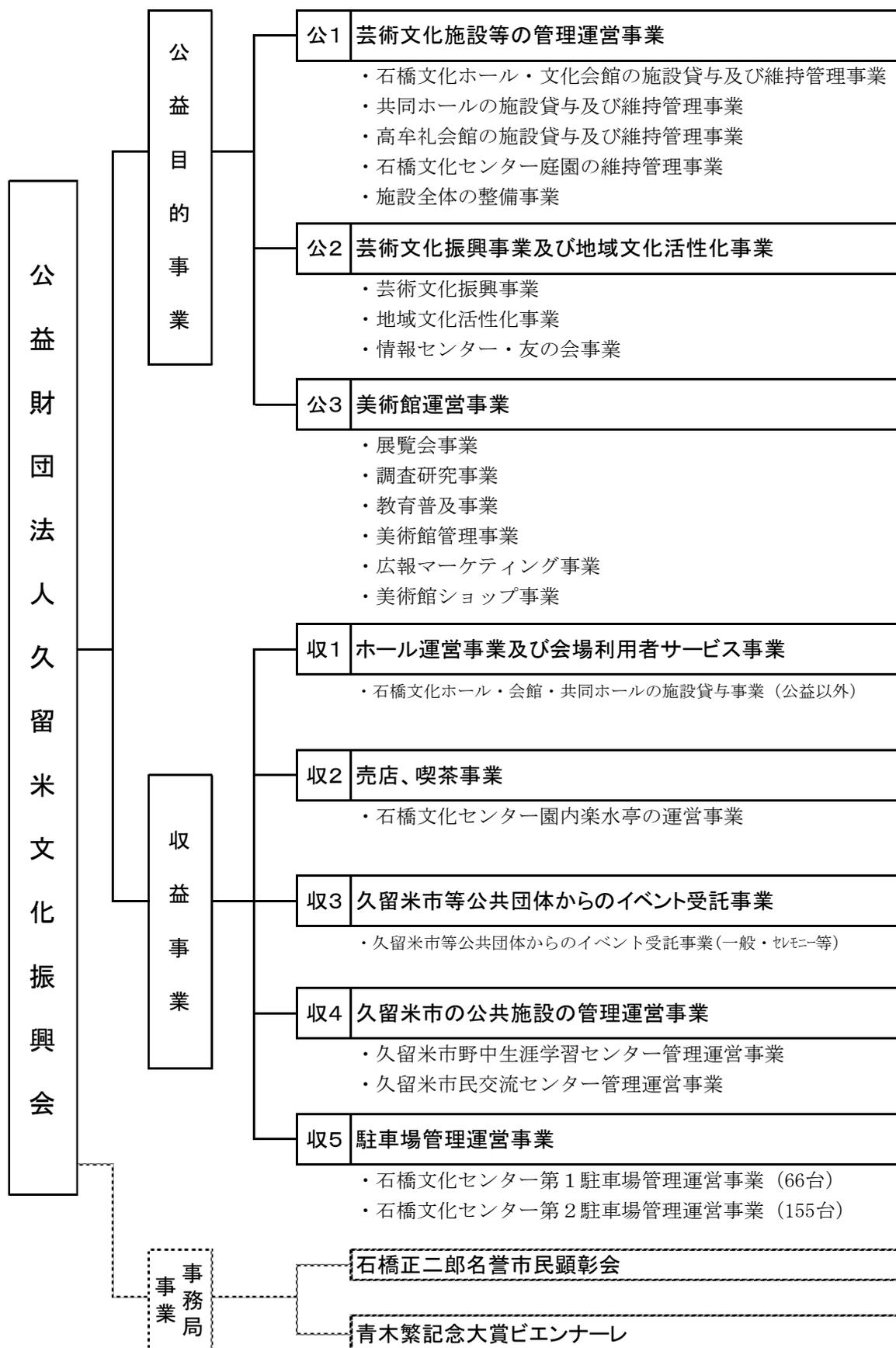
このリオープンに合わせて、久留米市による白鳥の池浚渫を行い、浚渫後は花菖蒲やスイレンなどの水生植物を再整備しました。また、上記イベント用幹線設備工事に合わせて、ライトアップのための照明設備を設置し、園内イベントで活用するとともに日本庭園完成50周年をPRしました。

一方、2022年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の必要はありましたが、施設の臨時休館や入場者数の制限をすることなく事業を実施することができました。市民の日頃の活動の成果を発表する機会として実施している「くるめ音楽祭」を3年ぶりに開催した他、前年度は入場制限により映像配信で開催した「ニューイヤー・バンド・フェスティバル」や「ライブチャレンジ」を有観客で開催することができました。

以上のように、2022年度は新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、イベントや事業を再開し、入園、入館者等も徐々に回復することができました。

II. 事業活動

【公益財団法人久留米文化振興会事業体系】



《公益目的事業》

芸術文化の振興と地域文化の活性化を図ることにより、地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的としています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、石橋文化センター及び園内の各施設を中心に事業を実施しました。

【石橋文化センター入園者及び主要施設の利用状況】

	当年度	前年度	対前年度
石橋文化センター入園者数（人）	401,495	305,370	96,125
久留米市美術館 主催展覧会入館者数（人）	26,388	33,394	▲7,006
石橋正二郎記念館入館者数（人）	25,894	15,939	9,955
石橋文化ホール入場者数（人）	69,571	29,617	39,954
石橋文化会館入場者数（人）	34,695	17,934	16,761
共同ホール入場者数（人）	33,244	21,732	11,512

*臨時休館など

〔久留米市美術館〕

2021年12月13日（月）～2022年10月28日（金）工事休館

〔園内、石橋正二郎記念館、楽水亭〕

9月18日（日）、19日（月祝）台風14号のため臨時休館

【石橋文化センター入園者等の月別推移】

	入園者数（人）			展覧会入館者数（人）		
	当年度	前年度	対前年度	当年度	前年度	対前年度
4月	32,120	35,944	▲3,824	-	5,304	▲5,304
5月	79,765	30,175	49,590	-	3,890	▲3,890
6月	21,359	21,282	77	-	4,420	▲4,420
7月	16,948	18,333	▲1,385	-	2,575	▲2,575
8月	16,965	16,564	401	-	3,560	▲3,560
9月	18,089	17,966	123	-	1,169	▲1,169
10月	37,723	31,478	6,245	655	2,993	▲2,338
11月	49,375	45,211	4,164	7,829	5,948	1,881
12月	27,831	28,473	▲642	4,046	3,535	511
1月	34,287	16,590	17,697	6,654	-	6,654
2月	31,901	17,902	13,999	2,519	-	2,519
3月	35,132	25,452	9,680	4,685	-	4,685
合計	401,495	305,370	96,125	26,388	33,394	▲7,006

公 1 芸術文化施設等の管理運営事業

石橋文化センター諸施設並びに高牟礼会館の施設貸与及び維持管理事業を行うことにより、芸術文化の振興と地域文化の活性化に取り組みました。

公 1—I 施設の貸与事業

1 石橋文化ホール・文化会館、共同ホール

施 設			開館 日数	利用 日数	利用率 (%)	利用者数 (人)
石橋文化ホール		当年度	311	193	62.1	69,571
		前年度	231	123	53.2	29,617
石橋文化会館	小ホール	当年度	311	201	64.6	13,152
		前年度	231	121	52.4	6,131
	会議室・研修室	当年度	1,555	831	53.4	14,681
		前年度	1,155	569	49.3	9,952
	市民ギャラリー	当年度	311	182	58.5	6,862
		前年度	231	123	53.2	1,851
小 計					当年度	104,266
					前年度	47,551
共同ホール		当年度	311	129	41.4	23,177
		前年度	231	97	42.0	15,218
研修棟		当年度	1,866	766	41.0	10,067
		前年度	1,386	492	35.5	6,514
小 計					当年度	33,244
					前年度	21,732
合 計					当年度	137,510
					前年度	69,283

【利用促進事業】

事 業		実施回数など
ちょっと気軽にスタインウェイ (石橋文化ホール)	当年度	11回実施 139人利用
	前年度	18回実施 185人利用
ちょっと気軽にカワイEX (共同ホール)	当年度	15回実施 172人利用
	前年度	18回実施 170人利用
ちょっと気軽にYAMAHA S6	当年度	15回実施 119人利用
	前年度	10回実施 91人利用
ちょっと気軽にピアノ発表会 (小ホール)	当年度	14件 185人利用
	前年度	10件 713人利用

事業		実施回数など	
練習利用	石橋文化ホール	当年度	7件 257人利用
		前年度	0件
	小ホール	当年度	12件 375人利用
		前年度	12件 223人利用

2. 高牟礼会館

【施設貸与状況】

年度	件数	利用人数	利用者作品展
当年度	1,607件	15,796人	1回
前年度	1,013件	10,118人	0回

公1—II 施設の維持管理

1. 庭園管理

久留米市施工による白鳥の池浚渫が実施され、花菖蒲の整備（鉢の装飾、土の入替、苗の更新）やスイレンの植替え等水生植物の再整備も行いました。

2. 施設整備事業

（1）施設の機能維持や安全性確保のために実施した事業

- 石橋文化ホールワイヤレスマイク入替
- 石橋文化センター白鳥の池浚渫（久留米市施工）
- 白鳥の池水生植物再整備
- 石橋文化センター正門フェンス改修工事

（2）感染症対策事業

- 石橋文化会館等 Wi-Fi 運用開始

公 2	芸術文化振興事業及び地域文化活性化事業
-----	---------------------

入場時の検温やマスク着用等、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、入場制限をすることなく事業を実施しました。

公 2— I 芸術文化振興事業

1. 優れた芸術文化公演等の鑑賞事業

事業名	開催日・会場・料金	入場者数
村治佳織ギター・リサイタル	2022年5月22日(日) 石橋文化ホール 5,000円	847人
ドラゴンクエストコンサート 交響組曲ドラゴンクエストX 目覚めし五つの種族	2022年8月14日(日) 石橋文化ホール 5,000円	832人

(協力事業)

稲川淳二の怪談ナイト

2022年10月23日(日) 石橋文化ホール 5,800円 入場者400人

2. 市民の文化活動の支援や地域文化団体の育成事業

事業名	開催日・会場・料金	入場者数
第33回くるめ新人演奏会	2022年5月29日(日) 石橋文化ホール 1,000円	210人
くるめ音楽祭 2022	石橋文化ホール 入場無料(要整理券)	
吹奏楽祭 ※アンサンブル・フェスティバル同時開催	2022年9月11日(日)	462人
合唱祭	2022年9月18日(日)	台風により中止
第51回市民プラス・コンサート 2023ニューイヤー・バンド・フェスティバル	2023年1月8日(日) 石橋文化ホール 入場無料(要整理券)	692人

3. 青少年の文化芸術体験事業

(1) 石橋文化センター開園記念こどもスケッチ大会

開催日：4月23日(土)、4月24日(日) 10:00~16:00

場所：石橋文化センター園内

参加人数：4月23日10人、4月24日172人

(2) 学校への芸術家等派遣事業 (久留米市からの受託事業)

学校と芸術家との協働で、子どもが文化芸術体験を通じて学び、表現できる環境を整える目的として、市内の小学校 24 校でワークショップを実施しました。

ジャンル	学校数	参加生徒数
音楽	1 校	101 人
箏・尺八	2 校	111 人
水墨画	3 校	279 人
狂言	5 校	350 人
能	2 校	108 人
馬頭琴	11 校	839 人
合計	24 校	1,788 人

(3) 小学生向け芸術アウトリーチ事業 「美術館へ行こう Go!Go!」 (自主事業)

新規事業として、学芸員による美術に関する講座やワークショップを市内小学校で実施しました。

学校数	参加生徒数
7 校	329 人

公 2 ー II 地域文化活性化事業

1. 石橋文化センター園内の花や美術館を活用した市民参加の事業

(1) 7つの花めぐり

石橋文化センターの庭園を活用し、季節を捉えた「ななつの花めぐり」のイベントを実施しました。

事業名	開催日	期間中入園者数
春のバラフェア	4月23日(土) ～5月29日(日)	89,469人
あじさい・はなしょうぶまつり	5月17日(火) ～6月19日(日)	39,372人
秋のバラフェア	10月15日(土) ～11月20日(日)	60,761人
もみじまつり	11月15日(火) ～12月4日(日)	45,117人
春の花まつり (梅まつり、つばきまつり、 SAKURA・チューリップまつり)	2023年2月11日(金・祝) ～4月9日(日)	67,605人
	合計	延べ302,324人

(2) 坂本繁二郎旧アトリエ特別公開

園内の事業に合わせて坂本繁二郎旧アトリエを公開しました。

事業名	開催日	入場者数
春のバラフェア	5月3日(火・祝)、4日(水・祝)、5日(木・祝)、14日(土)、15日(日)	1,872人
あじさい・はなしょうぶまつり	5月28日(土)、29日(日) 6月4日(土)、5日(日)	494人
秋のバラフェア／もみじまつり	10月29日(土)、30日(日)、11月3日(木・祝)、19日(土)、20日(日)、23日(水・祝)	1,490人
つばきまつり	2023年3月12日(日)、19日(日)	341人
合 計		17日間 4,197人

(3) ミュージアムコンサート

市民に優れた演奏を気軽に楽しめる機会を提供するコンサート。コンサートチケットで展覧会も鑑賞できる。今年度からは子供向けミュージアムコンサートも開催。

入場料：①無料 ②③④一般 500円 ⑤⑥一般 1,000円

会 場：石橋文化ホール

事業名・開催日・内容		入場者数	うち美術館 入館者数
① 4月26日(火) ※開園記念日(無料)	ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ	217人	休館
② 6月19日(日)	チェロ、ピアノ	372人	休館
③ 7月13日(水)	ヴァイオリン、ピアノ、ホルン	217人	休館
④ 9月25日(日)	ヴォーカル、ギター、サックス、ピアノ	455人	休館
⑤ 2023年1月15日(日)	トランペット、ピアノ、ベース、ドラム	320人	106人
⑥ 2023年3月5日(日)	マリンバ、ピアノ	305人	100人
合 計		1,886人	206人

(4) ミュージアムハロウィン

強化したライトアップ設備を活かして親子で夜の文化センターを楽しむイベントを新規事業として実施。コンサートや、マルシェ、仮装イベントなどを開催しました。

開催日：10月8日(土)～10月30日(日)

ライトアップは8日(土)～23日(日)の土日6日間(19時まで)

期間中入園者：31,151人(夜間ライトアップ1,752人)

(5) 石橋文化センターアートフェスティバル

2016年11月の久留米市美術館開館を機に、美術館のコンセプトである「石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉えた活動」として取り組んでいる事業。

子どもたちや大学生、アーティストとの協働プロジェクトを行い、開催期間に作品を展示しました。

開催日：10月29日（土）～11月20日（日）

会場：石橋文化センター園内各所

期間中入園者：42,775人

①子どもたちとアーティストによるアート創造プロジェクト

「馬がみる夢」(オブジェ展示)

地元アーティストと市内の小学生13名が、坂本繁二郎を代表するモチーフである「馬」からインスピレーションを受け、9月にワークショップを通じて作品を制作。フェスティバル期間中は、坂本繁二郎旧アトリエ内に作品を展示しました。
《参加アーティスト》中園唯（染織作家）、彌永裕子（テキスタイルアーティスト）

②アーティストを志す大学生等の創作活動支援プロジェクト

美術系大学生が、大学ごとに特色のある作品を制作し、作品を発表しました。

《参加大学》

九州産業大学 芸術学部 「輪」～Connect with flowers～（写真作品展示）

佐賀大学 芸術地域デザイン学部 「石橋文化センターハイライトツアー」

③スペシャルプロジェクト作品

「生誕140年ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」展開催記念プロジェクト

〈海底撈月（かいていろうげつ）〉

アーティスト：anno lab

音を手がかりに青木繁と坂本繁二郎に思いを馳せるサウンド・インスタレーション作品を展示しました。

④久留米大学附設高等学校・中学校×anno lab コラボレーションライトアップ

〈石橋の夜に現れるものたち〉

アーティスト：anno lab

久留米大学附設高等学校・中学校有志30人

学生が園内にどんな生き物が潜んでいるか発想し、アーティストとともに、最新技術を駆使した作品を展示しました。

⑤園内ライトアップと光のアート

日本庭園完成50周年を機に、石橋財団の支援を受け屋外照明設備を強化し、園内全域でライトアップを実施しました。

開催日：10月29日（土）～11月20日（日）期間中の金・土・日・祝12日間

入園者：2,936人

(6) 日本庭園完成 50 周年記念事業

1972 年に完成した日本庭園を広く周知する目的で事業を実施しました。

①水上ステージコンサート

開催日：11 月 19 日（土）、20 日（日）

来場者：950 人

②日本庭園特別ライトアップ

開催日：11 月 23 日（水・祝）、25 日（金）、26 日（土）、27 日（日）4 日間

来園者：858 人

(7) ミュージアムクリスマス

コンサートやワークショップなどのクリスマスイベントに加え、園内をライトアップとイルミネーションで彩りました。

開催日：12 月 10 日（土）～12 月 25 日（日）

（イルミネーションは期間中の金土日 8 日間）

期間中入園者：15,733 人（イルミネーション 2,347 人）

(8) ミュージアムバレンタイン

バレンタインデーに合わせて、色とりどりの花やイルミネーションで園内を彩り、寒い季節に暖かさを感じられるようにイベントを開催しました。

開催日：2023 年 1 月 28 日（土）～2 月 14 日（火）

（イルミネーションは期間中の土日祝 6 日間）

期間中入園者：20,850 人（イルミネーション 1,150 人）

2. 久留米市内の各地域でコンサート等を実施する市民参加の事業

（久留米市からの受託事業）

(1) くるめライブチャレンジ 2022 Jr ミュージックレクチャー（新規）

会場：久留米シティプラザ スタジオ 1～4

① 10 月 29 日（土） 参加者：22 人

② 11 月 26 日（土） 参加者：16 人

(2) くるめライブチャレンジ 2022

会場：久留米シティプラザ C-BOX

① 8 月 20 日（土） 出場：6 組

入場者：324 人

② 9 月 19 日（月・祝） ※台風接近により延期。10/9 に 2 部制で開催

③ 10 月 9 日（日） 出場：11 組

入場者：675 人

④ 12 月 4 日（日） 出場：7 組

入場者：210 人

(3) くるめライブチャレンジ 2022 ベストパフォーマー大会

会場：久留米シティプラザ 久留米座

開催日：2023 年 2 月 19 日（日） 出場：10 組

入場者：450 人

審査結果：年間チャンピオン（最優秀賞） まっすーし
審査員特別賞 vic bongo

(4) くるめライブチャレンジ 2022 Chase your Dream

開催日：2023年3月19日（日）

①Chase your Dream in ザ・グランドホール 渡辺美里

会場：久留米シティプラザ ザ・グランドホール

出演者：渡辺美里 サポートメンバー6名

入場者：967人

②Chase your Dream ベストパフォーマーライブ

会場：久留米シティプラザ C-BOX

出演者：まっすーし、さいとうゆい

入場者：120人

③Chase your Dream 六角堂広場アコースティックステージ

会場：久留米シティプラザ 六角堂広場

出演者：足立雄大&折居吉如 等6組

入場者：730人

④Chase your Dream ミニ演奏会&楽器体験

会場：久留米シティプラザ スタジオ2、スタジオ3

出演者：ピアリンバ 等2組

入場者：80人

(5) 久留米シティプラザ六角堂広場ランチタイムコンサート（新規）

会場：久留米シティプラザ 六角堂広場

①9月15日（木）出演者：古賀修（クラシックギター）等

入場者：420人

②10月13日（木）出演者：山田明子（フルート）等

入場者：530人

③11月10日（木）出演者：長谷川ゆか（鍵盤ハーモニカ）等

入場者：600人

(6) 邦楽振興事業

①邦楽ワークショップ

開催日：2023年2月25日（土）

・箏曲発祥の地“大本山善導寺”ツアー 参加25人

・お箏の演奏体験&公開リハーサル 参加24人

②邦楽演奏会 箏曲のふるさと久留米 第5回記念「春を彩る邦楽のしらべ」

開催日：2023年2月26日（日）

会場：石橋文化ホール

入場者：430名 ※後日YouTube配信

3. 地域の施設や団体と連携した地域活性化事業

(1) くるめぐるフェスタ

近隣5施設（石橋文化センター、久留米市美術館、福岡県青少年科学館、くるめウス久留米市鳥類センター）で連携し各施設を巡るスタンプラリーを実施しました。

また、3年ぶりに5施設共同による「くるめぐるフェスタ」を開催しました。

開催日：9月10日（土）

会場：石橋文化センター園内

入園者：1,332人

(2) 久留米まち旅博覧会

①ヨガ体験と美術鑑賞 9月24日（土） 参加11人

②スマホで気軽に写真教室 2023年2月25日（土）8人、3月31日（土）7人

公2—Ⅲ 情報センター友の会事業

1. 情報誌の発行・ホームページの運営

情報誌「みどりのリズム」を毎月発行（12,000部）した他、Facebookに加え、公式LINE、公式インスタグラムを開設しました。

2. 友の会事業

美術館が休館になりましたが、様々なコンサートやイベントを実施し、会員期間を延長する対策などを講じ、会員数の維持に努めました。

(1) 会員の状況

※美術館を休館したため、2021年度会員有効期間は2022年10月28日まで延長

※2022年度会員有効期間は2022年10月29日～2023年3月31日

区 分	新規	継続	合 計（前年度）
ミュージアム会員	42人	286人	328人（357人）
スタンダード会員	35人	43人	78人（70人）
合 計	77人	329人	406人（427人）

(2) 友の会会員事業

事業名	開催日・会場・料金	参加者（視聴）数
楽しむ講座シリーズ		
青木繁×坂本繁二郎 展	12月6日（火）	25人
リアルの行方 展	2023年3月9日（木）	26人
	計	51人

上記講座の会場はすべて小ホール

料金：ミュージアム会員無料、スタンダード会員500円、一般1,000円

3. 石橋文化センター情報サテライト

「石橋文化センター情報サテライト」は、2018年4月に久留米シティプラザ2階総合受付正面に開設し5年目を迎えました。

情報サテライトでは、石橋文化センターや久留米市美術館、その他文化情報の発信の他、石橋文化センターや久留米シティプラザで開催するコンサートチケットも販売し、市民の利便性向上を図りました。

4. 久留米市外での広報活動

くるめBUNKA ウィーク

福岡市の中心にあるアクロス福岡で1週間に亘り、石橋文化センターや久留米市美術館を紹介する展示を実施しました。

日時：11月7日（火）～11月13日（日）

会場：アクロス福岡 1F コミュニケーションエリア、2F メッセージホワイエ、セミナー室

来場者：8,326人

久留米市の「新たな美術館の基本方針」に基づき、市民をはじめ多くの方々に親しまれる美術館となることを目指し、指定管理者として久留米市美術館の管理運営を行いました。なお、本年度9月末に竣工した搬出入口棟等整備工事においては、あわせて美術館の受変電設備の移設や主要空調設備の更新及び止水板設置工事も実施されました。これらはすべて公益財団法人石橋財団のご支援によるものです。

1. 展覧会事業

久留米市美術館本館は、搬出入口棟等整備工事のため約10か月休館していましたが、本館リオープンを飾る展覧会として、「生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」展を、公益財団法人石橋財団の特別助成により開催しました。二人の生涯を旅になぞらえ、それぞれの代表作を含む約250点の作品と資料によってたどる本展は、久留米生まれの二人の洋画家を一緒にとり上げる展覧会としては実に66年ぶりとなりました。

「リアル(写実)のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと」展は、明治期以降の日本の写実表現がどのように継承・再考されてきたのか、高橋由一の油彩画や松本喜三郎の生人形などを導入とし、現代作家17名の平面・立体作品から探る展覧会で、久留米市美術館でこれまでに扱うことのなかった分野の作家・作品を紹介しました。

会場	展覧会	会期	一般料金	入館者数 (1日平均)
本館 2階	生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎 【(公財)石橋財団特別助成】	10月29日(土) ～2023年1月22日(日) (72日間)	1,000円	19,184人 (266人)
	リアル(写実)のゆくえ 現代 の作家たち 生きること、写す こと	2023年2月11日(土) ～2023年4月2日(日) (42日間 ※全会期44日間)	1,000円	～3/31 7,204人 (172人) 全会期 8,279人 (188人)
2022年度合計(114日間)				26,388人 (231人)

2. 石橋正二郎記念館の運営

美術館本館が工事休館中の2022年1月から10月までは、記念館展示を軸とした一連の催事を「ペリかんくらぶ」と名付け、展示テーマを変えながら3期開催しました。「ペリかんくらぶ」の名称は、当センターのペリカン噴水に由来するもの。また本館休館後は、石橋正二郎にちなんだテーマで石橋財団コレクション作品を展示しました。

また、公益財団法人石橋財団のご支援により、展示室内映像機器類の更新及び音声ガイドアプリ開発により、スマートフォンによる視聴が可能となりました。

期	展示テーマ	会 期	入館者数 (1日平均)
第17期	ペリかんくらぶ(その1) 岡田三郎助と辻永	2022年1月22日(土)～4月17日(日) (75日間:2021年度60日間/2022年度15日間)	※4/1～ 1,165人 (78人)
第18期	ペリかんくらぶ(その2) 黒田清輝と藤島武二	4月23日(土) ～7月18日(月・祝)(75日間)	8,201人 (109人)
第19期	ペリかんくらぶ(その3) 松田諦晶と古賀春江	7月23日(土) ～10月23日(日)(80日間)	5,062人 (63人)
第20期	第20期 正二郎と ブリヂストン美術館	10月29日(土) ～2023年2月5日(日)(84日間)	8,344人 (99人)
第21期	第21期 石橋正二郎の コレクションの始まり	2023年2月11日(土・祝) ～4月16日(日) (56日間:2022年度42日間/2023年度14日間)	3,693人 (65人) ※3/31迄 3,122人 (74人)
2022年度合計(296日間)			29,339人 (99人)

3. 調査研究事業

(1) 作品収集、保存・修復のための調査研究

①久留米市美術品収集委員会で審議する候補作品の選定

「久留米市美術品収集方針」に沿った作品を収集候補作品リストとして久留米市に提出しました。また、これまで久留米市美術品収集委員会で審議を経て購入及び寄贈を受入れた作品については写真撮影、状態調査に基づいた画面および額の修復・改善を行い、収蔵庫内にて保管しました。2021年度の新収蔵品について、「年報」で報告しました。

②展示・保管環境の管理

久留米市所蔵品及び石橋財団や個人から寄託中の作品の保全のため、万全の管理を心がけています。2022年度は特に久留米を代表する画家の生誕140年を記念した「ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」などでアーティゾン美術館ほか全国から貴重な作品を借用したため、美術館の展示環境に問題がないよう、作品の搬出入口や空調、温湿度等の管理を徹底しました。

③収蔵作品の公開

収蔵品のデータベースを公開し、ホームページ上で所蔵品検索ができるようにしています。

(2) 作家・作品及び展覧会企画のための調査研究

2022年度に開催した展覧会「ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」及び「リアルのかぐやめ」展において出品作家や作品について調査研究し、その成果を展示に反映するとともに図録等で発表しました。また、2021年度の新所蔵作品に関する研究報告を「年報」で発表する他、次年度以降の展覧会企画の実施に向けての調査研究を行いました。

(3) 久留米市美術館年報5 (2021.4-2022.3) の刊行

久留米市美術館の2021年度活動報告をまとめた年報を刊行しました。

4. 教育普及事業

(1) 展覧会に関する美術講座等の開催

①展覧会関連美術講座・ギャラリートーク等 ※みゅ〜ず講座は除く

前年度に引き続き開催した「ペリかんくらぶ」では石橋正二郎記念館で展示した作品についての講座や、ボランティアによるギャラリートークを実施しました。

2本の展覧会では外部講師を招いた講座・トークイベントを開催しました。「生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」展では石橋財団アーティゾン美術館と連携した講座を、「リアル(写実)のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと」では、講座の他に担当学芸員や出品作家によるギャラリートークを実施しました。

講座名(講師名)	開催日	参加者数
1 「ペリかんくらぶ(その1・2)」関連		
① 美術講座「黒田清輝と藤島武二 カンヴァスに光とどけて」(佐々木奈美子/当館学芸員)	5月14日(土)	29人
② 連続ミニレクチャー「わたしのイチオシ!」3回 「坂本繁二郎《放水路の雲》」(原口花恵/当館学芸員) 「熊谷守一《磯》」(佐々木奈美子/当館学芸員) 「野見山暁治《二人》」(森智志/当館学芸員)	7月2日(土) 7月9日(土) 7月16日(土)	22人 13人 35人
③ ギャラリートーク5回(当館学芸員)	会期中 第1・3日曜	75人
2 「ペリかんくらぶ(その3)」関連		
① 美術講座「松田諦晶と古賀春江」(森智志/当館学芸員) ※オンライン研修(You Tube 限定配信)	8月27日(土) ※配信8月31日(水) -9月3日(土)	30人 ※視聴回数 64回
② 連続ミニレクチャー「わたしのイチオシ!」2回 「児島善三郎《五人の女》」(森山秀子/当館副館長) 「高島野十郎《春雨》」(佐々木奈美子/当館学芸員)	9月10日(土) 9月24日(土)	20人 34人
③ ギャラリートーク6回(当館ボランティア)	会期中 第1・3土曜	91人
3 「生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」関連		
① 出張講座「もっと知りたい福岡「青木繁と坂本繁二郎」」 (森山秀子/当館副館長、原口花恵/当館学芸員) アクロス福岡	11月12日(土)	(33人)
② 美術講座「ふたりの「繁」が作り出した美術の世界」 (森村泰昌氏/美術家)	11月26日(土)	124人
③ 美術講座「青木繁坂本繁二郎-これからのふたつの旅-」 (伊藤絵里子氏/石橋財団アーティゾン美術館学芸員、森山秀子/当館副館長)	12月17日(土)	66人
④ 美術講座「能面のはなし」 (山口剛一郎氏/能楽師、原口花恵/当館学芸員)	2023年 1月15日(日)	86人

4 「リアル (写真) のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと」 関連		
① 美術講座「生人形と近代の彫刻-リアルさとは何か 日本彫刻の特異点」 (小谷元彦氏/出品作家・美術家・彫刻家)	2023年 2月18日(土)	44人
② ギャラリートーク2回 (森智志/当館学芸員) (秋山泉/出品作家・画家)	2023年 3月11日(土) 3月18日(土)	34人 38人
合計 (主催事業のみ)	対面事業参加者数 (25回) オンライン視聴回数 (1回)	741人 64回

② 展覧会関連ワークショップ等

「ペリかんくらぶ」のワークショップでは、感染拡大防止の観点から道具類のこまめな消毒など、十分な対策を講じながら、対面でワークショップおこないました。また、感染拡大の影響から対面での実施が難しい場合はキットにして配布し、人同士の接触を最小限に抑えました。

10月以降は引き続き感染対策をしながら、コロナ以降久しぶりに外部講師を招いたワークショップを実施しました。

事業名 (外部講師名)	開催日	参加者数
1 「ペリかんくらぶ(その2)」 関連		
① ダンボールでつくるいろとりどりのとり	6月11日(土)	48人
② テッポウユリのイロとカタチ	6月25日(土) 6月26日(日)	9人 24人
2 「ペリかんくらぶ(その3)」 関連		
① 記念館で工作「ダンボールでフレームづくり」 当初対面で実施予定であったがキットの配布とした	7月28日(木)	45人
② 記念館で工作「サコッシュにスタンプをおそう」	8月10日(水)	85人
③ オリジナル石橋文化センター手帖	9月17日(土)	3人
④ 未来型ペリカン噴水 (御笹朋子氏/美術家)	10月2日(日)	12人
3 「生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」 関連		
① お面で表現しよう！～喜怒哀楽のかたち～ (國吉篤子氏/「うさぎアートくらぶ」主宰)	12月11日(日)	11人
4 「リアル (写真) のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと」 関連		
① 見つめて描く (秋山泉氏/出品作家・画家)	2023年 3月18日(土)	10人
合計		247人

③ その他

- ・「くるめ BUNKA ウィーク」11月12日(土)

- ・ アクロス福岡にて久留米餅を使用したバッジ作りを実施。参加者 40 人。
- ・ リーフレットの配布
「生誕140年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」展を制作し、青木繁と坂本繁二郎を知らなかった人に向けに会場で配布。また久留米市内中学 1 年生全員に配布。

(2) 美術館ボランティア事業

2022 年度ボランティア登録者数 35 人 (前年度 40 人)

① 美術館ボランティア研修

	内容	開催日
1	「ボランティアの概要とトーク」研修 対面研修 オンライン研修 (You Tube 限定配信)	4 月 23 日 (土) 4 月 27 日 (水)-4 月 30 日 (土)
2	「記念館のトークのポイント」研修 対面研修 オンライン研修 (You Tube 限定配信)	5 月 14 日 (土) 5 月 19 日 (木)-22 日 (日)
3	「松田諦晶と古賀春江」概要研修	6 月 18 日 (土)
4	ギャラリートーク実践の研修	7 月 7 日 (木) 7 月 24 日 (日) 7 月 26 日 (火) 7 月 27 日 (水) 7 月 31 日 (日)
5	「生誕 140 年 ふたつの旅 青木繁×坂本繁二郎」展の概要研修	10 月 8 日 (土)
6	「リアル(写実)のゆくえ 現代の作家たち 生きること、写すこと」展および石橋正二郎記念館 21 期展示の概要研修。	2023 年 1 月 21 日 (土)
7	「コレクション ing4 野見山暁治の見た 100 年」展および石橋正二郎記念館 22 期展示の概要研修	2023 年 3 月 25 日 (土)
8	ボランティア活動全般について	2023 年 3 月 25 日 (土)

②活動

学校団体受入などで活動しました。休館が明けた秋以降に集中したことから、密を避けるために前年度に引き続き月曜日にも受け入れを行いました。

(3) 学校団体見学等 (大学生以下) ※入館者数には引率者を含む

区分	件数 (前年度)	入館者数 (前年度)
小学校	10 件 (3 件)	572 人 (195 人)
中学校	28 件 (17 件)	3,213 人 (2,360 人)
高校等	4 件 (2 件)	243 人 (169 人)
大学等	7 件 (6 件)	125 人 (103 人)
その他	8 件 (3 件)	170 人 (69 人)
合計	57 件 (31 件)	4,323 人 (2,896 人)

- ・ 上記のうち、市内中学校団体受入 17 校

5. 美術館管理事業

- ①作品鑑賞にふさわしい空間のための建物、空調設備などの維持管理

公益財団法人石橋財団による改修工事

- ・搬出入口棟新設
- ・空調設備更新
- ・高圧受変電設備改修
- ・止水板設置
- ・石橋正二郎記念館映像機器類更新及び音声ガイドアプリ開発導入

②1 階展示室貸与事業（前年度）

西部示現会等 15 件（10 件）、延べ貸出日数 100 日（66 日）、
入場者数 20,200 人（6,925 人）

6. 広報マーケティング事業

美術館及び美術館活動に関する情報発信

- ・ポスター、チラシ等印刷物や広報くるめ、みどりのリズム等情報誌、ホームページ、フェイスブック、ツイッター等 Web 媒体等による情報発信
- ・マスメディア等による展覧会広報
- ・園内事業と連携した広告掲出
- ・百貨店や西鉄福岡（天神）、花畑駅との広報連携

7. 美術館ショップ事業

- ・展覧会の図録、関連書籍、画材、文具等の販売
- ・絵はがきや作品を配したオリジナル商品の販売・製作
- ・楽水亭との展覧会関連商品販売等の連携

8. 協賛制度

「石橋文化センターをひとつのミュージアムと捉えた活動」や園内の環境整備等に資する目的で企業・団体・学校からの支援を募りました。

区 分	企業・団体数（前年度）
スペシャルパートナー	1 件（1 件）
オフィシャルパートナー	5 件（5 件）
キャンパスパートナー	1 件（1 件）
一般協賛	44 件（40 件）

《収益事業》

収 1 ホール運営事業及び会場利用者サービス事業

石橋文化ホール・文化会館並びに共同ホールの施設貸与において、看板、花、ピアノ調律などを受注し、利用者サービスに努めました。

収 2 売店・喫茶事業

カフェ&ギャラリーショップ楽水亭（石橋文化センター内）

感染拡大防止に努めながら、展覧会にちなんだカフェメニューの提供等を行い、売上の確保に努めました。なお、前年度末に久留米市庁舎内喫茶玖留見は閉店しました。

収 3 久留米市等公共団体からのイベント受託事業

当財団の有するノウハウを発揮し、久留米市から次の事業を受託しました。

- ・アンネのバラ管理・鉢上げ業務
- ・西鉄観光列車連携事業業務（西鉄花畑駅・福岡天神駅花壇設置等）
- ・久留米市合川町津福今町線開通式業務

収 4 久留米市の公共施設の管理運営事業

1. 久留米市野中生涯学習センター

石橋文化センターに隣接する久留米市野中生涯学習センターを指定管理者として、管理運営を行いました。

(1) 施設貸与状況

	利用可能日数 (日)	利用率 (%)	利用者数 (人)	内 訳 (人)	
				登録団体利用者数	一般利用者数
当年度	272	51.8	52,381	登録団体利用者数	40,324
				一般利用者数	12,057
前年度	239	58.8	35,750	登録団体利用者数	24,549
				一般利用者数	11,201

2. 久留米市民交流センター（久留米市庁舎内）

2019年度から5年間の新たな指定管理期間の4年目。新型コロナウイルスワクチン接種会場等公的利用のため一般貸出は行いませんでした。

収 5 駐車場管理運営事業

収益事業として利益を確保するように追加警備の大幅な縮減など経費節減に努めました。

《事務局事業》

1. 石橋正二郎名誉市民顕彰会

世の人々の幸福と郷土の発展を願った石橋正二郎名誉市民の理念を広く伝え、これからのまちづくりを進めるために顕彰事業を実施しました。

(1) 会員の状況

2022年度会員 個人 90人(127口) 法人 68社(69口)

(2) 事業実施状況

①墓前祭

2022年9月10日(金) 千栄禅寺 60人

②講演と展覧会見学会

2022年12月16日(金) 30人

2. 青木繁記念大賞ビエンナーレ

4年ぶりに開催する第7回展の実施に向けて、作品募集のための広報活動や美術系大学への働きかけを積極的に行いました。

Ⅲ 処務の概況

1. 役員に関する事項

2023年3月31日現在

役員	氏名	就任年月日	担当職務	現職
評議員	佐々木 康博	2021. 9. 22		株式会社ブリヂストン 九州生産部門長兼久留米工場長
	橋本 安彦	2011. 4. 1		久留米商工会議所副会頭
	内野 博夫	2021. 6. 29		久留米連合文化会会長
	絹笠 順一	2011. 4. 1		久留米文化推進協議会会長
	田中 功一	2021. 6. 29		久留米市議会議員
	早田 耕一郎	2021. 6. 29		久留米市議会議員
	松延 洋一	2021. 6. 29		久留米市議会議員
	井上 謙介	2020. 6. 24		久留米市教育長
	豊福 由紀子	2021. 6. 29		久留米市子ども未来部長
理事	檜原 利則	2013. 6. 20	理事長	久留米市美術館館長
	永田 見生	2017. 3. 1	副理事長	久留米大学理事長
	本村 康人	2013. 6. 20		久留米商工会議所会頭
	西嶋 大二	2015. 6. 23		公益財団法人石橋財団常務理事
	龍頭 宏典	2013. 6. 20		旭ゴルフ株式会社取締役社長
	甲斐田 義弘	2021. 6. 29		久留米市議会議員
	古賀 敏久	2022. 4. 14		久留米市議会議員
	橋本 政孝	2022. 8. 15		久留米市副市長
	西村 信二	2021. 4. 1	常務理事	
監事	潮田 康之	2019. 4. 1		株式会社ブリヂストン久留米工場 工場企画管理課長
	大久保 隆	2021. 4. 1		久留米市会計管理者

2. 会議に関する事項

区分	年月日	議事事項	会議の結果
臨時評議員会 (みなし決議)	2022年 4月14日	第1号議案 理事1名の選任について	原案承認可決
第1回 定例理事会	2022年 6月2日	第1号議案 特定費用準備資金の取り崩し及び新規保有について	原案承認可決
		第2号議案 2021年度事業報告並びに決算について	原案承認可決
		第3号議案 定時評議員会の招集について	原案承認可決
定時 評議員会	2022年 6月24日	第1号議案 2021年度 事業報告並びに決算について	原案承認可決
臨時理事会 (みなし決議)	2022年 8月1日	第1号議案 評議員会の招集について	原案承認可決
臨時評議員会 (みなし決議)	2022年 8月15日	第1号議案 理事1名の選任について	原案承認可決
第2回 定例理事会	2023年 3月30日	第1号議案 2022年度事業計画並びに予算書等について	原案承認可決
		第2号議案 評議員会の招集について	原案承認可決

3. 許可・認可・承認に関する事項

なし

4. 届出・申請等に関する事項

年月日	項目	摘要
2022年4月20日	福岡県（電子申請）	喫茶玖留見閉店に伴う変更届
2022年4月21日	法務局へ登記	理事1名の就任
2022年5月12日	福岡県（電子申請）	役員変更の届出
2022年6月30日	福岡県（電子申請）	2021年度事業報告等の提出
2022年8月23日	法務局へ登記	理事1名の辞任及び就任
2022年9月1日	福岡県（電子申請）	理事1名の辞任及び就任
2023年3月31日	福岡県（電子申請）	2023年度事業計画書等の提出

5. 組織に関する事項

(2023年3月31日現在・常勤役員は含まず)

	一般職員	嘱託職員	市職員(派遣)
総務課	3 (内1名団体へ派遣)	0	-
会場サービス課	5	1	-
企画広報課	4		-
園内魅力推進課	5	1	
美術館総務	1	1	-
学芸課	3	1	1
合計	21	4	1

IV 附属明細書

2022年度の事業報告の附属明細書について、事業報告の内容を補足すべき重要な事項は存在しない。